

第55回シン・ヤマグチ全私研

実行委員会ニュース



【第1号】

2025年1月15日

《発行者》

全私研現地実行委員会

みなさんこんにちは！来夏の全私研を担当する現地実行委員会です。山口を中心に、中四国ブロックの総力を結集して、全国の皆様をお迎えできるように、頑張りたいと思います！今後、実行委員会の準備の様子や、現地山口の見どころなどを皆様にお伝えします。どうぞご期待ください♪

実行委員長よりご挨拶



前回の湯田全私研の際に初参加。再び山口での全私研。そして、まさか実行委員長という大役…、と相当ビビっています(笑)。全国の皆さまに「参加してよかった」と思ってもらえるよう、全力を尽くします！どうぞよろしくお願いいたします！

おいでませ山口へ！！

たてばやし もとふみ
建林 基文 (山口：誠英)

事務局およびチームの紹介

<p>前夜祭：藤澤 龍也 (山口：誠英)</p> <p>ゴルフと温泉が大好きです。山口県はゴルフのプレー費が安い！県内の温泉はph度が高くて、肌がトゥルトゥルになりますよ。ぜひ皆さんでおいでませ！</p> 	<p>全体集会：中橋 辰則 (広島：進徳)</p> <p>趣味はキャンプにお酒、そしてディズニー！最高なエンタメは夢を見せてくれますが、最高な教育は人をどう成長させるのか！より良い教育を目指していきましょう！</p> 	<p>高校生交流集会：北川 弘樹 (岡山：金光)</p> <p>気づけば教員生活もはや10年目、全力で駆け抜けてきました。次の10年もがんばるぞ！今回の山口全私研でお会いできることを楽しみにしております。おいでませ、中四国へ！</p> 
<p>物販担当：内田 千絵 (山口：宇部鴻城)</p> <p>山口でしか買えないものをたくさん準備しています！みなさんのお越しをまちよるよ♡</p> 	<p>分科会担当：飯野 良仁 (香川：高松中央)</p> <p>8年前の湯田温泉全私研でつながった中四国の青年達が、立場を変えて再び全私研に携わる。みんなで、今回も出会いと繋がり生まれる全私研にしていきましょう。</p> 	<p>渡辺 一平 (高知：高知小)</p> <p>全私研に関わらせて頂くのは十数年ぶりです。山口での全私研開催に向けて微力ながらお手伝いさせていただきます。高知は若手がいなくてすみません。</p> 
<p>豊田 公生 (愛媛：新田)</p> <p>組合活動を通して、多くのことを勉強させてもらっています。皆さんに会える日を楽しみにしています。よろしくお祈りします！</p> 	<p>事務局長：佐伯 昭太 (広島：安田)</p> <p>前の湯田全私研の年に産まれた息子がもう小学生。親として日々勉強中です。事務局長再登板っ！全国での経験値を生かして、成功のために力を尽くします！</p> 	<p>事務局次長：植松 誠二 (広島：山陽)</p> <p>2024年はサウナにハマリ、絶賛整い中！エヴァ聖地の宇部市、吉田松陰ゆかりの長門市、角島や元乃隅神社など全私研の参加ついでに、多彩な魅力を味わいに来てください！</p> 

タイトルに込めた思い…

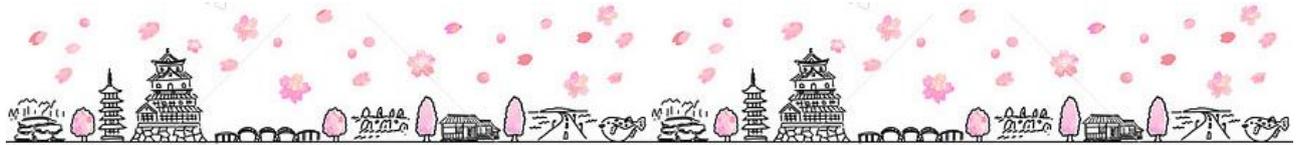
今回の全私研を「シン・ヤマグチ全私研」と名付けました。山口県の宇部市は、エヴァンゲリオンシリーズの庵野秀明監督の出身地であり、“まちじゅうエヴァンゲリオン”という取り組みが行われています。エヴァファンの方は、全私研に加えて聖地巡礼もどうぞ☆もちろん、新幹線の駅名である“新山口”ともかかっています(笑)。また、ギリシャ語の“シン”(syn)は、「共に」「一緒に」を意味する接頭語です。英語でいうと、“synchronize”(同時に動く)や“synergy”(相乗効果)、“sympathy”(共感する)なんて単語があり



ますね。全私研で山口の地に集い、みなさんとともに考え、語り、発信していくことが、素敵な未来を作っていくのではないのでしょうか？

奇しくも、2025年は“戦後80年”という節目の年であり、日本被団協がノーベル平和賞を受賞したのも記憶に新しいところですね。

昨今、いろいろな場面で“分断”を感じるがあります。この“シン・ヤマグチ全私研”が、我々の結束や共栄の一助となれば…。そんな思いを込めて、この全私研を盛り上げていきたいと思ひます！



準備状況の報告

12月28日に現地実行委員会を山口にて開催しました。「どんな全私研にしたいか」をそれぞれが語る中で、目指すべきものが少しずつ見えてきています。また、各部署のチームもほぼ決まり、それぞれの部署で準備を進めていきます。特に、Tシャツについては、物販担当の内田さんが積極的に動いてくれています。地元山口の“瑠璃光寺”(右写真)をモチーフにしたものになるとのこと。どのようなシャツになるか、とても楽しみです～♪物販について



は、それ以外にも、いろいろと魅力あるグッズの構想を練っています。新しい情報は、このニュースでどんどんお伝えしていきますので、お楽しみに☆



さて、山口の名物という、根っからの“麵食い”の編者がおすすめるのはやはり『瓦そば』(右写真)ですかね。それから、他県の方にはあまり知られていないと思ひますが、『ばりそば』(左写真)もなかなかですよ～。ぶちうまい♪♪♪



でも、ここで詳しい説明は致しません。“百聞は一食に如かず”、来て、見て、食べてくださいね～！